

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

☆かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子
 【かがやく瞳で意欲的に学ぶ子】ともに学ぶ楽しさを実感し、多様な考えから自己の考えを深め、意欲的に学び続けようとする子を育てます。(知)
 【さわやか笑顔で挨拶する子】積極的なコミュニケーションを通して、共感的な理解や合意形成を図りながら、共に生きていこうとする子を育てます。(開)
 【まごころいっぱい思いやりのある子】身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、よいと思ったことを進んで行おうとする子を育てます。(徳)
 【のびのび心も体も健康な子】体を動かす楽しさを知り、自他の心身を大切にすることをもち、自ら健やかな体づくりに取り組もうとする子を育てます(体)
 【このまちを愛する子】地域の人やものに興味・関心をもちながら進んでかかわり、社会のために自分ができることを考えて行動する子を育てます。(公)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

＜言語能力＞
 ＜問題発見・課題解決をする能力＞
 ＜自分づくりに関する力＞

具体化した資質・能力

- ＜問題発見・課題解決をする能力＞
- ⑩ 主体的に調べる・活動する力
- ⑪ 問題を設定する能力
- ＜自分づくりに関する力＞言語能力
- ⑫ 伝え合うことで自分の力を深化させる力

中期取組目標

1. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業力を向上させ、データを活用しながら子どもが楽しさを実感できる授業づくりをめざします。
2. すべての子どもに全教職員で関わる姿勢を大切に、子どもの思いや願いに寄り添いながらチームで指導や支援を行います。
3. 道徳科の授業の充実や親和的な学級づくり、人のかかわりや行事を通して、互いのよさや違いを認め合い、思いやりの心を育てます。
4. 子どものまちへの思いを引き出し、「人・もの・こと」と関わる豊かな体験を通して、地域を愛する心を育てます。
5. 各教職員が自己研鑽に励み、データを活用しながら学校をよりよくしようと協働できる組織をつくりまします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①教育課程全体で身に付けさせたい資質・能力を「言語能力の育成」として、横浜市学力・学習 状況調査の調査結果や子どもたちの状況を踏まえ、単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善を行う。②「自ら考え、生き生きと学びあう子」を目指して～豊かに表現し伝え合う子を育てるには～とし、国語科の時間を中心に、子どもが思いをもって言葉を選びながら伝え合い、相手から表現されたことを受け自分の考えを深める対話的な学びの姿を目指す。
担当	重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

どの学年においても各教科の通過率は、横浜市の平均より高い結果となった。知識・技能だけではなく、思考・判断・表現の設問においても市平均を上回っており、資料の活用や応用的な思考力が養われていることが見て取れる。
 国語科の結果をみると、学力に関しては市の平均と同程度か上回る通過率を示しているが、説明的な文章(時間の順序、重要な文の選出など)や情報活用(原因と結果の関係、理解したことに基づいて自分の考えをもつ)などの設問に弱さが見られた。
 意識調査では、「言葉のもつ面白さ、楽しさ、よさ」を感じながら学習しているかの問いに対しては、意識は低学年・中学年は高いものの、高学年になると低くなる傾向にある。文章の読み取りの中で、語彙や語句の面白さ、楽しさ、よさを見つけ実感させた。

今年度の目標

自ら考え、生き生きと学びあう子を目指して
 ～豊かに表現し伝え合う子を育てるには～

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【子どもが「自ら考え、生き生きと学びあう」ための手立て】
 ・「豊かに表現し伝え合う子」を育てるために、引き続き、語彙力を増やし自分の思いを豊かにするだけではなく、他者の考えに触れ自分の考えを見直したり、より豊かにしたりして対話的な学びを目指して研究を進める。
 ①語彙力の向上②言葉の必要性、相手意識と目的意識③言語活動の工夫の3つの視点から授業改善に努める。
 さらに、ICT機器等の効果的な活用のあり方について考える。
- 【「本校で育てたい資質・能力(ぐるぐる)」を意識した授業改善】
 ・「このような姿に育てたい」という子どもの姿を具体的に考え、増やしていく。
 ・本校の子どもたちの姿を見取り、横浜市カリキュラムマネジメントの中の「言語能力」のぐるぐるを本校で育てたい子どもの姿、資質・能力に変えていく。
 ・学年間の指導の系統性を把握し、学びがどこへつながっていくの理解を深める。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として、ふれあいやたてわり、体験活動など学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③運動会やドレミファコンサートなど様々な行事を通して、互いのよさを認め合ったり、子どもの情操を高めたりする。
担当	人権委員会・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

・あいさつについては、ふれあい委員会を中心に朝のあいさつ運動をしたり、帰りに全職員が校門であいさつをしたりしている。進んであいさつする児童もいれば、会釈だけと様々である。
 ・たてわり活動では、年8回、教室でたてわりで集まり、6年生が考えたレクを中心に活動・交流している。
 ・道徳科の授業は、全学級、年3回の授業参観のうち一回以上は公開している。
 ・運動会やドレミファコンサートなどの学校行事では、学年やたてわり学年で集まり、各学年やクラスでの発表を見合っている。
 →実施後、他学年へがんばったところやよかったところを書き、校舎内に貼り、各学年に渡す「スマイルレメッセージ」という活動を実施している。児童運営委員会が中心となり、企画・運営をしてよりよい笠間小につなげている。

今年度の目標

さまざまな学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させ、豊かでたくましい心
 情や、共に支え合い高め合う意欲を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①【あいさつ運動の充実】(通年)
 ・あいさつの合言葉にある「いつも」「先に」ができるよう、学校で色々な場面できっかけをつくらせたり振り返りしていき。児童会スローガンの3つの「あい」(あいさつをかわしあい)じぶんからたすけあい)ともだちのよさをみとめあい)も大事に活動を展開している。
 ②【ふれあいやたてわり活動の充実】(通年)
 ・たてわり活動や異学年との交流を大切に、主体性や責任感、思いやりや協力し合う心を育てる。
 ③【「道徳の時間」の充実】(通年)
 ☆道徳教育の要となる「道徳の時間」の指導を通して、児童が道徳の見方、考え方、感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、道徳的実践力を身に付けられるようにする。
 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、各教科の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。
 ・保護者に向けて、全学級が年一回以上、「道徳の時間」の授業公開をする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
安全・健康教育	①自分の体調に関心をもち、衛生に気を付けるとともに、健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、学校保健委員会の充実を図り、児童の健康や安全に対する意識を高める。②体育委員会の児童を中心に企画運営している長縄(チャレンジタイム)に継続して取り組み、体力向上を目指す。③給食や学習内容に沿った内容を取り上げ、食への関心を高める機会をつくる。
担当	安全・健康委員会

健やかな体に関わる本校の状況

・休み時間には、鬼ごっこやドッジボール等体を動かして遊んでいる児童とあまり体を動かさない児童との二極化が見られる。
 ・水泳、サッカー、野球、チアリーディング等スポーツクラブや運動系の習い事に多くの児童が所属している。
 ・学区に公園があり、放課後も多くの子は外へ出て遊んでいるが、外遊びを好まない児童も少なくない。
 ・新体力テストの結果は全体的に全国平均、市平均から下回っている。市平均より上回っているも、本校の過去の平均から比べるとやや下降傾向にあるものが多い。
 ・朝食の摂取率は高い。また、歯みがき検査の結果はA、Bが9割近く、保護者の健康に対する意識は高いが、過去から比べるとやや下降傾向にある。
 ・睡眠時間は高学年に上ると短くなってきている。
 ・給食はよく食べ、残量も少ない。
 ・iPadに親しんでいる児童が多いが、顔を近づけて見ていたり、姿勢が崩れたりしている。

今年度の目標

基本的な生活習慣や健康・安全に関する活動を全校で取り組み、個々の意識を高める。また、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指し、さらに食への関心を高めたい。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①学校保健委員会の活動を通して、子ども一人ひとりが健康への関心を高めるとともに、関係機関との連絡を密にする。前期は、一人ひとりが自分の歯について知り、歯磨きや食事、睡眠などについても意識を高められるような内容をテーマに取り組んでいくようにする。
 ②体力向上一校一実践運動として縄跳び運動に取り組む。「チャレンジタイム」として長縄に取り組み、体力の向上を目指す。個人では、目標を立てて短縄に取り組み、健康維持への興味関心や体力の向上につなげる。
 ③給食に関して、アフターコロナにおける会食の指導や地産地消について学べるようにし、全体計画に基づいて感謝の気持ちをもちながら、児童の食への関心を高める。
 ④全校児童の安全危機管理について、これまでに実施している避難訓練を、より一人ひとりを大切にした年間実施計画を作成するために、随時見直しをし改善していく。